

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立竹矢小学校）

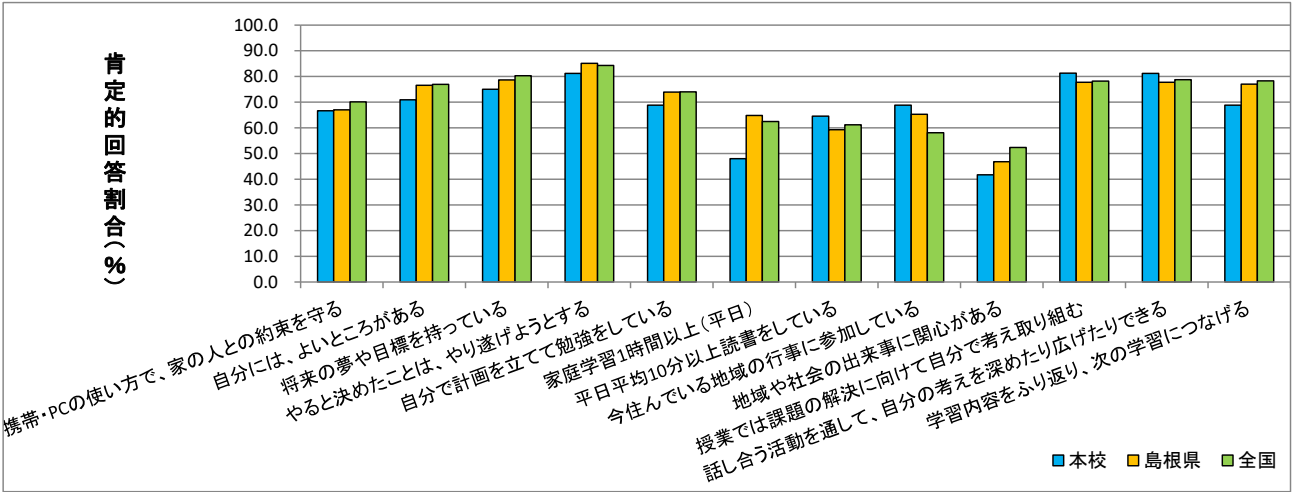
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
国語	○記述問題に対しても無解答率が低く、粘り強く課題に向かう傾向がみられる。 ●文脈に合った漢字を正しく使うこと、読み取ったことを条件に合わせて書くことの正答率が低い。	・言葉や漢字の習得・活用について授業の中で積極的に取り上げたり、家庭学習と効果的につなげたりして定着を図る。 ・いくつかの条件を満たして書く活動を意図的に設定し、その指導の工夫と適切な評価を行う。
算数	○グラフの読み取り、商が1より小さくなる等分除の立式と計算等の正答率が高い。 ●測定「条件に合う時刻」、図形「組み合わせた図形の面積」等の正答率が低い。	・課題に対する個の考えを表現する場面、ペアや小集団、全体の対話で深めていく場面、わかったことをまとめ、ふりかえる場面等、各学習場面の充実を図る取組を今後も継続、発展させていく。

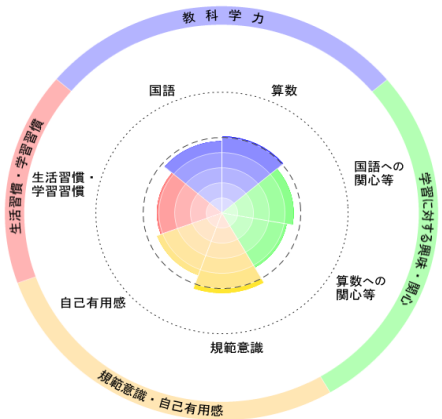
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
○読書習慣や読書量については継続して良好な状況である。 ○話し合いで考えを深めることに対して前向きな傾向がみられる。 ●教科の学習に対する肯定的な意識が全体的に低い傾向にある。特に算数への意識はほとんどの項目で県や全国を下回っている。	・生活とのつながりが実感できる学習構成、その教科や内容を学ぶよさに気付いたり考えたりする学習展開、児童の意欲をくすぐる課題設定や発展的な学習等を積極的に取り入れ、「国語や算数…が好き、おもしろい、役に立つ」と感じることのできる授業づくりを目指す。

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・学校の教育活動全体を通して児童の自己有用感を高める。
- ・朝読書や帯タイム学習、書き取り計算会等を継続し、読書習慣や基礎基本の定着を図る。
- ・主体的で質の高い家庭学習になるような手立てを講じる。
- ・授業にICTを積極的に導入し、効果的な学習スタイルを構築していく。
- ・メディアコントロールについてPTAと連携した取組を進める。

【受検者数】 48 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。